

杉並農人

Suginami

Nōjin

第2号



杉並には、地域の人たちとの「ふれあい」を大切にする農業者がいます。学校給食に新鮮な地元野菜を届けて子供たちの「食育」に一役買い、収穫体験などを行って都市農業の「今」を伝えています。農産物直売所や即売会では、自慢の品を威勢良く販売する声を響かせています。現在、東京23区で農地があるのは杉並を含めて11区のみ。都会でがんばる杉並の農業者を“杉並農人”と呼び、紹介してまいります。



杉並は農家が素敵だ。

杉並区の農業

- ・農家戸数：146戸 ※平成28年4月現在
- ・農地面積：44.74 ㌦ (447,400 m²)
※平成28年4月現在
 ※農地のある区部11区で5番目の農地面積
 ※野菜・果樹の他、植木・切り花等の栽培も多い
- ・野菜の生産量ベスト3 (平成25年度)

1位	ダイコン	89トン (89,000kg)
2位	トマト	83トン (83,000kg)
3位	ナス	76トン (76,000kg)
- ・果物の生産量ベスト3 (平成25年度)

1位	柿	12トン (12,000kg)
2位	キウイフルーツ	5トン (5,000kg)
2位	栗	5トン (5,000kg)

美味しい野菜は「選ばれる」

旬を届ける野菜自販機

毎年秋に開催される杉並区農業祭では、区内の農業者が持ち寄った選りすぐりの農産物を審査する品評会が行われている。ここ数年、必ず受賞者に名を連ねているのが、上高井戸で野菜農家を営む中村幸雄さん一家だ。

長年、そんな高品質の野菜を育てている中村さんは、上高井戸で代々続く農家の12代目。22歳で就農して以来、46年間、農業を続けてきた。現在、京王線芦花公園駅から歩いて5分、世田谷との区界にある約40㎡の畑で、妻の百合子さん、二男の幸治さんと一緒に野菜を栽培している。

たくさん車と人が行き交う甲州街道から路地を少し入った場所に畑はある。その畑を一步出るとすぐ住宅街で、近くに設置されたコインロッカー式の野菜自販機に、朝採れの新鮮な野菜を求めて近所の人が次々と立ち寄る。この日販売していたのは、ブロッコリー、カブ、キュウリ、新たまねぎ、そして旬のフキ。ウォーキングの途中だという女性が、「良い野菜が驚くほど安く買えるので、いつも利用しています」と手慣れた様子でブロッコリーを買い求めている。

季節によってハヤトウリやズイキなど、今では珍しくなった昔ながらの野菜も並ぶ中村さんの自販機は、都会にしながら気軽に旬を楽しめるスポットとして、地元で愛されている。中村さんは、「ここは静かな住宅街。早い時間から畑に耕耘機を入れないなど、作業音には気をつけています」と、近隣環境への気配りも忘れない。

ブロッコリーで連続最高賞

現在、中村さん一家は、年間約30品目の野菜を栽培している。堆肥を入れて土作りにこだわった畑には、品目ごとに最適な時期に出荷できるよう、整然と野菜が植えられている。一番自信がある作物は何か尋ねると、「キュウリですね。昔から高井戸地域で栽培が盛んだったことありますが、味も形も良

いものが採れていると思います」と答えてくれた。早速、そのキュウリをいただくと、爽やかな香りと瑞々しい味が口いっぱいに広がった。

確かな技術で栽培された中村さん一家の野菜は、どの品目も定評があるが、特にブロッコリーは、平成26年、27年と連続して杉並区農業祭品評会の最高賞（特等・東京都知事賞）を受賞。他の年には、キャベツ、カリフラワー、ジャガイモで入賞を果たしている。

区内で収穫された様々な品目の農産物が300~400点も出品される品評会で、受賞を勝ち取るのは容易なことではない。中村さんも長年チャレンジを続けた末、努力が実って賞に入るようになったと言う。「審査員に選ばれるためには、誰が見ても『あ、この野菜は品質が良いな』と分かるものを作らなければならない。その努力が消費者に選ばれる野菜作りにつながっていくと思います」。

杉並の特産野菜を作りたい

中村さんは、昨年からJA東京中央の理事を務め、農業イベントの運営を担当するなど、地域農業振興の中心を担っている。品評会でも、出品するだけでなく運営側の役割を担うようになった。最近では、二男の幸治さんと一緒に、地域のイベントに参加することも多いと言う。「農業祭でおなじみの、杉並産野菜で作る宝船。一番上に載せる縁起物のヤツガシラは、毎年わが家が出品しています。宝船を組み立てる作業には息子も参加しているんですよ」。

そんな中村さんの将来の夢は、「杉並区の新しい特産野菜」の創出だ。「今、区内の仲間と栽培を始めているのが、プチヴェールという葉野菜です。芽キャベツとケールを掛け合わせた、見た目も味も良い野菜で、昨年からすでに即売会などで好評を得ています。この秋は、もっとたくさん出荷できれば」と、声を弾ませた。中村さん一家のチャレンジは続く。

中村 幸雄

昭和23年生まれ。上高井戸で代々続く農家の12代目。現在は約40㎡(4,000㎡)の畑を妻と二男とともに経営。年間、約30品目を超える野菜を栽培し、野菜自販機、区内イベント、農協の即売会で販売している。杉並区の農業祭で開催される品評会で多数の受賞歴を持つ。

JA 東京中央・理事

直売所：杉並区上高井戸1-30-7
(コインロッカー式の野菜自販機を設置)



気軽に立ち寄れる野菜自販機。「野菜の買い置きがなくなると、まずここに来ます」と言うお客さんも。



パリッとした歯ごたえと香りが自慢。「毎朝、その日食べごろのキュウリを収穫しています」と中村さん。

News

成田西ふれあい農業公園が開園しました

平成28年4月9日、成田西の住宅街の一角に杉並初の農業公園が開園しました。

区民のみなさまが農に親しめる場として、気軽に土とふれあい、農を「見る」「ふれる」「楽しむ」ことができる公園です。この公園では、杉並らしい農のある風景を演出するとともに、農や食への理解や知識の向上を図り、さらに、都市における農の魅力や農地の多目的機能の大切さを伝えていきます。

今後は、収穫体験や野菜に関する講座などの企画を予定しています。「広報すぎなみ」や杉並区公式ホームページを中心にのご案内しますので、是非ご覧ください。

公園の概要

住所：杉並区成田西 3-18-9

電話：03-5347-2115

開園時間：9時～17時

休園日：年末年始（12月29日～1月3日）

入園料：無料

その他：駐車場なし・駐輪場あり



「荻窪マルシェ」が開催されました



6月4日（土）・5日（日）の2日間、新鮮野菜を楽しむことを目的としたイベント「荻窪マルシェ」がルミネ荻窪店で開催されました。野菜にかかわるセミナーやワークショップ、各種ショッピングコーナーなど盛りだくさんの内容で、JA東京中央は東京都エコ農産物認証制度の認証を受けている生産者の農産物を販売するブースを出店。多くの来場者から好評を博していました。

杉並産野菜のメニュー開発を進めています



地産地消の取り組みのひとつとして、JA東京中央と協力しながら、病院や学校、大きな事業所などが設置する食堂へ杉並産野菜を提供し、独自のメニューを開発していきます。まずは荻窪病院への杉並産野菜の提供から開始しました。今後も地域のレストランや事業者からの杉並産野菜の活用の希望を受け付けながら、農業者とのマッチングなどを行っていきます。

「のものマルシェ阿佐ヶ谷」に参加中です



JR東日本グループによる、食を中心として地域の魅力を再発見するプロジェクト「のものマルシェ」。上野駅や秋葉原駅からスタートし、現在は区内でも高円寺駅と阿佐ヶ谷駅で行われています。JA東京中央杉並中野生産部会では、阿佐ヶ谷駅に月に一度出店して即売会を実施。駅構内なので、気軽に立ち寄り、杉並産の農産物を購入できるまたとない機会です。

10月までの即売会予定

日時：7月21日（木）10時～
※売切れ次第終了

名称：城西生産部会夏期即売会

場所：杉並区役所西棟玄関前広場

問合せ：杉並グリーンセンター 03-5349-8791

日時：10月16日（日）10時～15時※予定

名称：都市農地を守ろう！

「アグリフェスタ2016」

場所：杉並区役所西棟・東棟広場、1階ロビー

問合せ：産業振興センター都市農業係
03-5347-9136

日時：10月28日（金）・29日（土）

各日9時～※売切れ次第終了

名称：杉並中野支店前即売会

場所：JA東京中央杉並中野支店前

問合せ：JA東京中央杉並中野支店 03-3399-8983

※杉並区発行『ふれあい農業すぎなみ 農産物直販マップ2016』や杉並区公式ホームページもあわせてご参照ください。



杉並農人 第2号

平成 28 年 7 月

企画：杉並区

制作：NPO法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー

協力：杉並区農業者（JA東京中央城西生産部会、JA東京中央城西地区青壮年部、JA東京中央杉並中野生産部会、JA東京中央杉並中野地区青壮年部、柿木園芸研究会、井草園芸研究会、高井戸花卉研究会、杉並区グリーンクラブ）、JA 東京中央、杉並区民の皆さん

◎お問い合わせ

杉並区産業振興センター都市農業係 〒167-0043 杉並区上荻一丁目2-1 インテグラルタワー2F TEL：03-5347-9136

参考：杉並区発行「ふれあい農業すぎなみ 農産物直販マップ2016」

※杉並区 HP でも公開しています。「農業振興」で検索してみてください。